

ダイオキシン対策型

アースクリーン焼却炉

取 扱 説 明 書

C I 295型

C I 495型

バーナーは別冊

はじめに

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本機を末永くご愛用頂けますよう、この取扱説明書を熟読の上ご使用くださいますよう
お願い申し上げます。

なお、バーナーにつきましては、別添えのバーナー取扱説明書をお読みください。
また、製品の向上には絶えず努力を傾けております。従いまして製品改良のため、仕様
など予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

目 次

	ページ
1. 安全にお使いいただくために	2
2. 仕様諸元	4
3. 外観寸法及び各部の名称	5
4. 設置方法と組立方法	6
1) 準備	6
2) 設置方法	7
3) 組立方法	8
4) 燃料パイプの組み付け	10
5. 運転方法	11
1) 燃料タンクに白灯油を入れる	11
2) 着火手順	12
3) 燃焼温度の確認	19
4) 消火手順	20
6. 保守・点検	21
7. よくある質問とその対応	22
8. 投入機投入ハンドル組み付け要領	23
9. 温度センサー組み付け調整要領	24

1. 安全にお使いいただくために

安全に効率よくご使用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書・安全に関する注意事項をよくお読みください。

使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださいますようお願い申し上げます。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が障害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。

これらは安全上特に重要な項目です。

必ずお読みいただき指示に従ってください。

 **危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

 **警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

 **注意** 指示に従わないと、障害を受ける可能性のあるもの

基本的注意事項 安全のためにこれらの注意事項を守ってください。

 警 告
<p>過労・飲酒時の作業禁止</p> <p>過労や睡眠不足で体調が悪いときや、飲酒時・薬物飲用時の作業は、注意力が散漫になり、事故につながります。</p> <p>体調が悪いときや、飲酒・薬物飲用時の作業は行わないでください。</p>
<p>きちんとした服装・保護具の着用</p> <p>だぶだぶの服、装飾品など機械部品に引っかかる可能性のあるものや、油などの付着した作業着は引火しやすいので着用してはいけません。</p>
<p>改造はしないでください</p> <p>弊社の承認の無い改造は、安全上問題になることがあります。</p> <p>許可の無い改造に起因する、人身事故や故障については責任を負いかねます。</p>

⚠ 危 険

- ◎ 危険物の焼却炉へ投入禁止
 - 引火性の高い物…ガソリン・シンナー・ベンゼン・エチルアルコールなど
 - 爆発が起こりえる物…スプレー缶・火薬・密閉された缶など
 - 毒物…水銀・ヒ素・黄リン
 - 劇物…クレゾール・トルエン・硝酸
 - その他、上記以外にも危険性のある物

⚠ 警 告

本機の故障や近隣の方々にご迷惑をおかけすることを避けるために、下記使用方法を必ずお守りください。

- 絶対に投入口、灰出し扉を開けた状態で焼却しないでください。
- 絶対に塩素系化合物は、焼却しないでください。
- 1時間あたりの焼却能力以上は、焼却物を投入しないでください。
- プラスチック類の焼却は、焼却量の質量比で5%以上燃やさないでください。

⚠ 注 意

- 焼却中は、2次燃焼バーナー及び送風スイッチを必ず『ON』の状態で使用してください。
(バーナー部の故障原因となります。)
- 使用前に燃料タンクの残量確認し不足する場合は適正補給してください。
燃料タンクは出来るだけ満タンにしてください。
(燃料切れが起きるとポンプの破損原因となります。)
- 使用状況により、耐火セメント表面が薄皮がむけた様になることがありますが異常ではありませんのでそのまま使用ください。
- 煙突傘の金網が目詰まりしているときは、金網を掃除又は交換してください。

上記使用方法をおこなわず故障になった場合は、保証の対象になりませんのでお気をつけください。

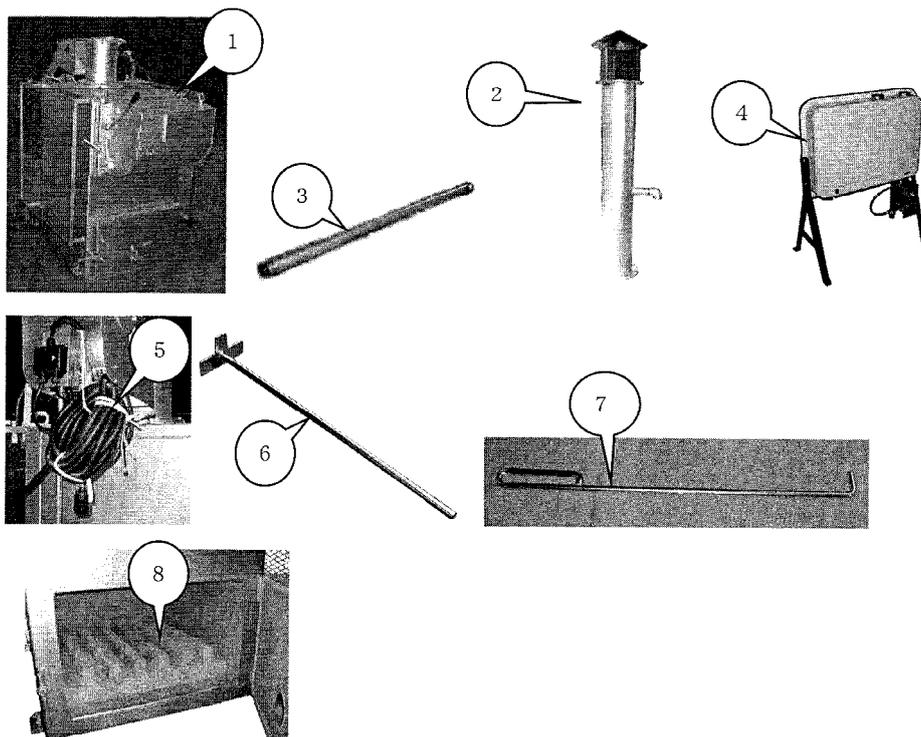
2. 仕様諸元

型 式	C1295	C1495
焼却能力	29.5 Kg/H	49.5Kg/H
全 長	1,800 mm	1,950mm
全 幅	1,240 mm (スイッチボックス含む)	1,395 mm (スイッチボックス含む)
全 高	3,910mm (傘含む)	3,910mm (傘含む)
投入機投入口寸法 (投入口寸法) 幅×高さ	半径380mmの1/4の円面積 (540X450 mm)	半径380mmの1/4の円面積 (700X450 mm)
本体質量 (除く 燃料タンク)	約1,320kg	約1,650kg
ロストル面積	0.29m ²	0.49m ²
一次炉内容量 (一次炉内寸法)	0.34m ³ (0.54X0.54X1.2m)	0.57m ³ (0.7X0.7X1.16m)
使用燃料	白灯油	白灯油
燃料タンク容量	90L	90L
燃料消費量	4~6L/H	4~6L/H
電 源	AC100V 50/60Hz	AC100V 50/60Hz
消費電力	438W	438W

4. 設置と組立方法

1) 準備

最初に、ご購入いただきました焼却炉の部品が全て揃っていることを、ご確認ください。



- ①. 炉 本 体 (図: C I 4 9 5) . . . 1
- ②. 煙 突 1 (傘及び傘用金網付)
- ③. 配管パイプ 1
- ④. 燃料タンク 1
- ⑤. 電気ケーブルと燃料パイプ 1 (通常はバーナーにセット)
- ⑥. 灰掻き出し棒 1
- ⑦. 掻き出し棒 1
- ⑧. ロストルレス台 1 『295型』 / 2 『495型』 (通常は炉本体にセット)

2) 設置方法

⚠ 危険

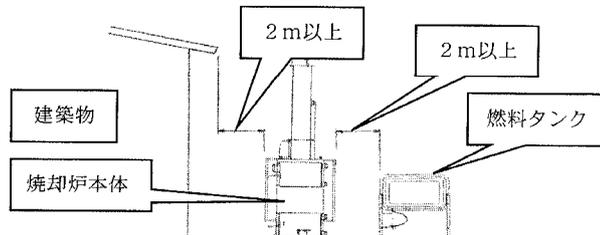
焼却炉と建築物との保有距離

消防法では焼却炉（釜戸・炉等）の設置は火災防止上、建築物等から安全な距離を保つことが定められております。

又、各地方公共団体が独自に安全な距離を定めている場合もありますので確認してください。

（定められている保有距離が下記以上の場合は、そちらを参考にしてください。）

本焼却炉では、最低保有距離を下記の通りと致します。



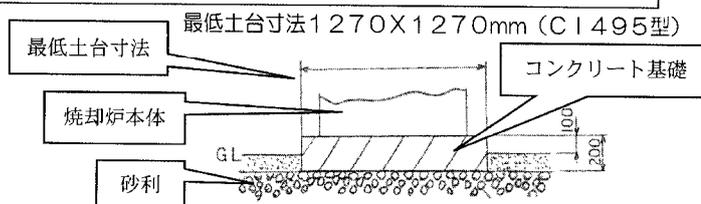
焼却炉本体と建築物等及び燃料タンクの保有距離は2m以上とします。

但し、前方は3m以上の保有距離で設置してください。

防火壁を設ける場合もその距離を保ち、通風のため四方を塞ぐ事は絶対に避けてください。

又、必ず屋外に設置してください。

設置場所が軟弱な場合は、下記図を参考に基礎を作ってください。



設置は平坦な場所を選び、本体と燃料タンクは電気ケーブルと燃料パイプが無理なく接続できる範囲で位置を決めます。（必ず2m以上距離を保ってください。）

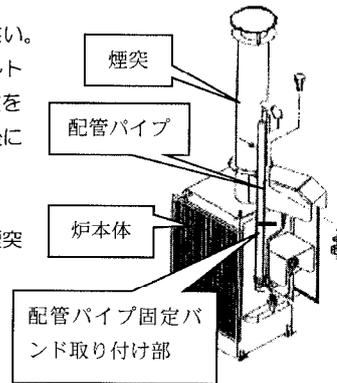
⚠ 危険

本体と燃料タンクは必ず2m以上距離を保ってください。

3) 組立方法

- (1) 煙突に配管パイプをねじ込み、取り付けてください。
- (2) 炉体の煙突の取り付け部に、M10×30のボルトが6本取り付けられています。これを外して、煙突を炉体に取り付け、このボルトで配管パイプ固定後に締め付けてください

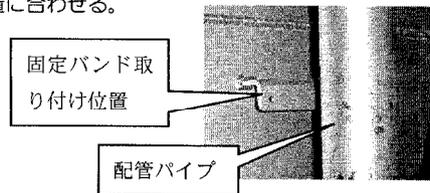
(炉体の煙突の取り付け部分にはパッキンが組み付けてあります。パッキンは外さずにそのまま煙突を、組み付けてください。)



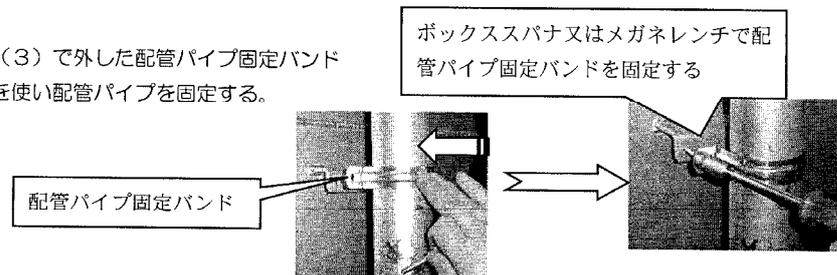
- (3) 炉体後部に取り付けてある配管パイプ固定バンドを外す



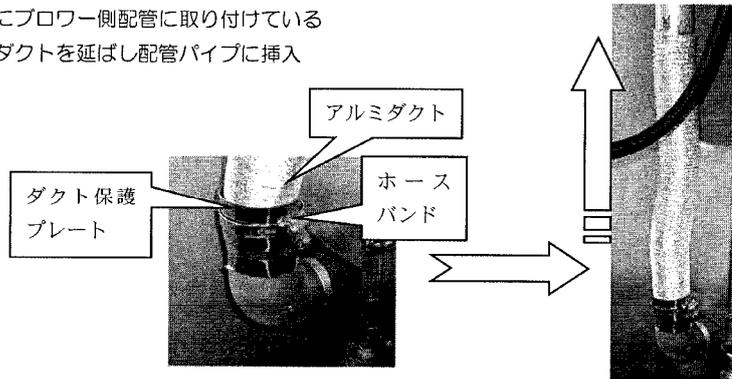
- (4) 配管パイプを固定バンドの取り付け位置に合わせる。



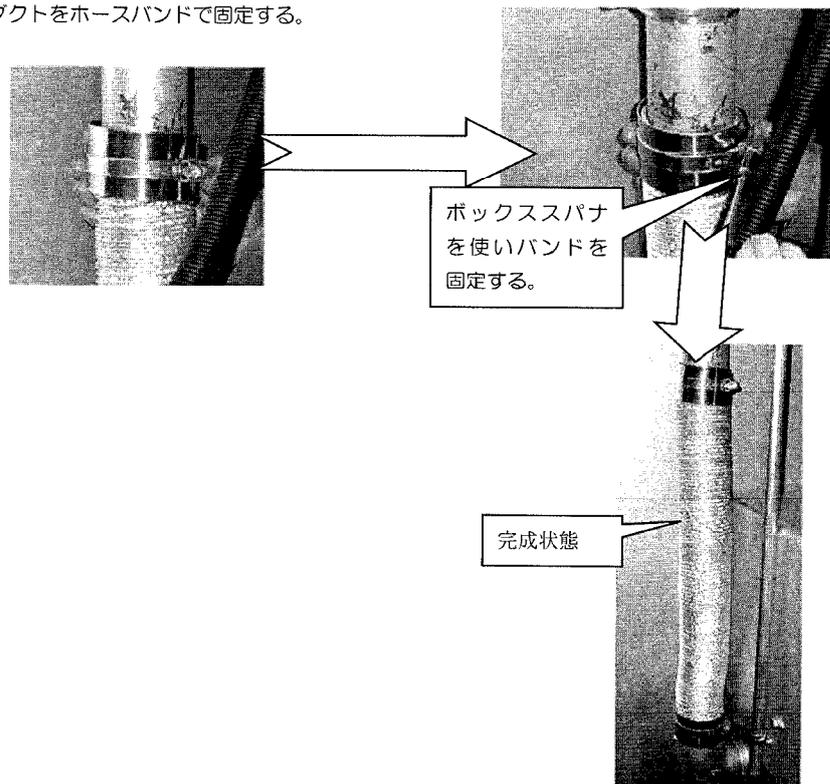
- (4) (3) で外した配管パイプ固定バンドを使い配管パイプを固定する。



- (5) 炉体にブロー側配管に取り付けている
アルミダクトを延ばし配管パイプに挿入
する

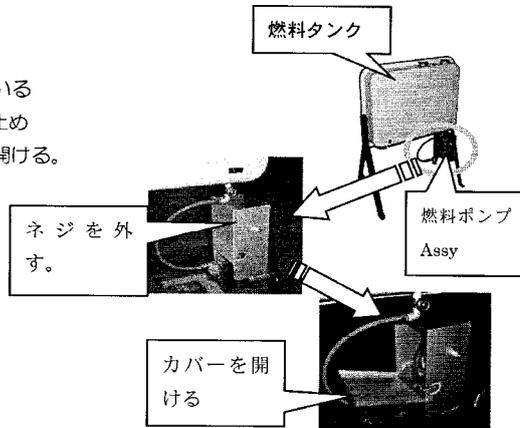


- (6) アルミダクト下部の固定方法を参考に
ダクトをホースバンドで固定する。

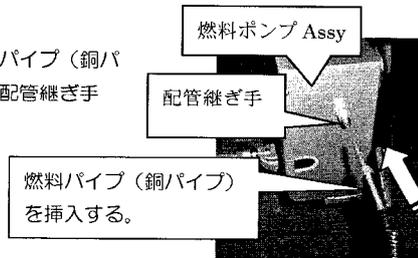


4) 燃料パイプの組み付け

- (1) 燃料タンクの下に組み付けている燃料ポンプ Assy のカバーを止めているネジを外し、カバーを開ける。



- (1) バーナー部に組み付けている燃料パイプ（銅パイプ）を、燃料ポンプ Assy の配管継ぎ手部に挿入する。



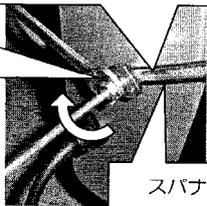
- (2) 燃料パイプに付いているナットを配管継ぎ手のネジ部に取り付け、継ぎ手部の六角及び燃料パイプのナットにスパナ（サイズ：12mm）を使用し、継ぎ手部を固定し燃料パイプのナットを右に回し固定します。

	組み付け時の注意
	ナットを固定するときには、締めすぎるとパイプが変形し燃料漏れの原因となります。 ナットを手で回るところまで回しその後スパナで約90°～130°の範囲で締め付ける。

継ぎ手部のスパナは、継ぎ手が回らないように固定する。

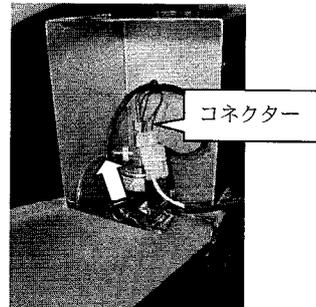
燃料パイプのナットを右に回す。

スパナ



Detailed description: This section contains a warning box and a close-up diagram. The warning box states that over-tightening the nut can cause pipe deformation and fuel leakage, and that the nut should be turned by hand until it is nearly seated, then tightened with a 12mm wrench by approximately 90 to 130 degrees. The close-up diagram shows a wrench being used to tighten the nut on the fuel pipe fitting. The wrench is positioned on the hexagonal part of the fitting to prevent it from rotating.

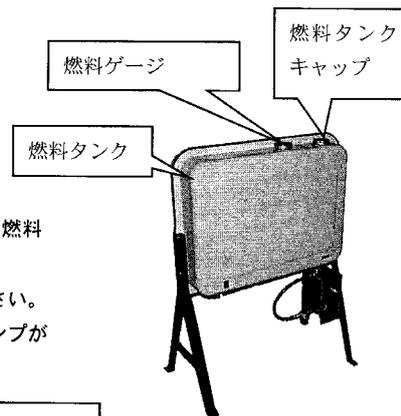
(3) 燃料ポンプ用コネクターをバーナー側コネクターに差し込み接続固定する。
 ※燃料ポンプのコネクターは、確実に接続してください、ポンプ作動不良の原因となります。



 警告
<p>燃料パイプのコネクターから燃料漏れが無いことを、確認してください。</p> <p>電気ケーブルは炉本体等の高温部に触れないようにしてください。</p> <p>燃料タンクは、炉体より2m以上距離を保って設置してください。</p>

5. 運転方法

- 1) 燃料タンクに白灯油を入れる。
 燃料タンクキャップを開け
 燃料を入れる。(満タン約90L)
 - ・ 運転中は燃料を切らさないように、時々燃料ゲージを確認してください。
 - ・ 不足している場合は、適宜補給してください。
- ※燃料が無い状態で運転を行うと、燃料ポンプが破損しますのでご注意願います



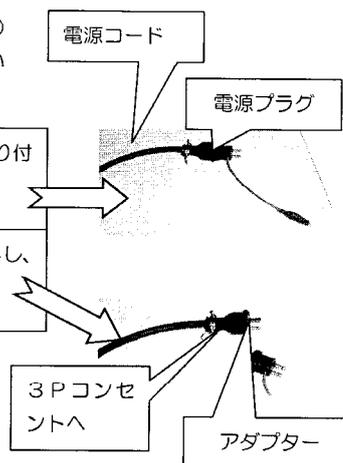
 警告
<p>ガソリン・シンナー使用厳禁</p> <p>燃料にガソリン・シンナー等の揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。 引火して、爆発・火災の原因となり大変危険です。</p>

2) 着火手順

- (1) 電源プラグを電源に差し込みます。(AC100V)
この際に、バーナーのスイッチがOFFになっていることを確認してください。

2Pコンセントの場合、プラグにアダプターを取り付け差し込みます。

3Pアース付きコンセントの場合、アダプターを外し、プラグを差し込みます。

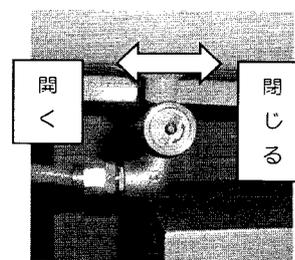


⚠ 警告

事故防止のため、アースを必ずとってください。
漏電やプラグ外れの無いように、確実な配線をしてください。
焼却中に停電すると不完全燃焼となり、有毒ガスが排出する恐れがあります。

- (2) バーナーに点火し二次燃焼室を予熱する。

- ① 燃料タンク下部にある燃料バルブを全開にして燃料をタンク下部燃料ポンプへ流す。

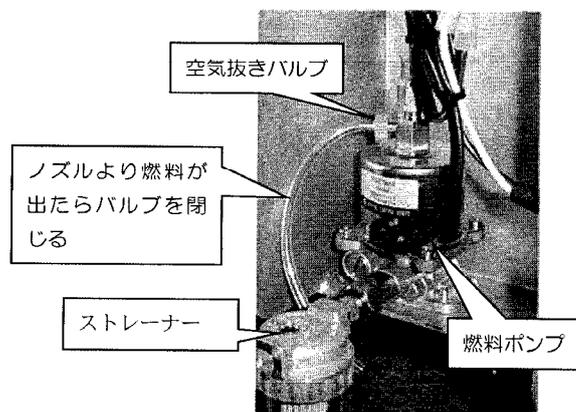
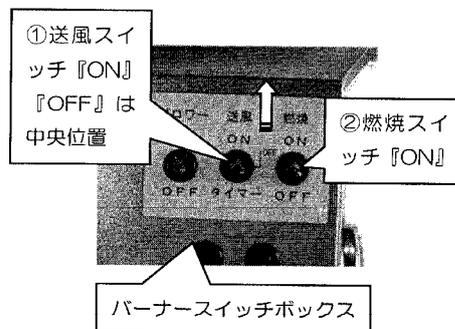


- ② ストレーナーに空気又は水分が混入していないか確認する。

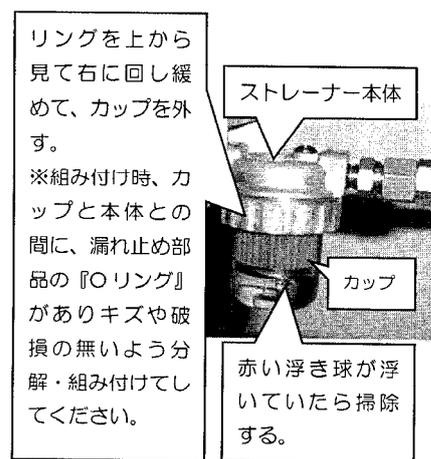
- (ア) 空気が混入していた場合ストレーナーの空気抜きネジを緩め内部の空気を抜いた後、ネジを締めてください。



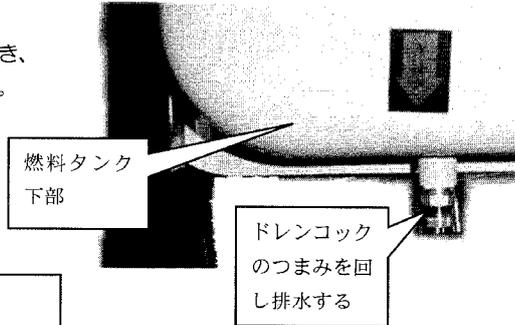
(イ) バーナーの送風スイッチを『ON』にした次に燃焼スイッチを『ON』にして燃料ポンプを起動させ、燃料ポンプの上についている空気抜きバルブを開きノズルから燃料が出るまで空気を抜きその後バルブを閉じ、燃焼スイッチと送風スイッチを『OFF』にしてください。



(a) ストレーナーの中にある赤い浮き球が浮いていたら水分が混入しています、カップを外しストレーナー内の水分を除去し、フィルターを掃除してください。
(バーナー取扱説明書参照)



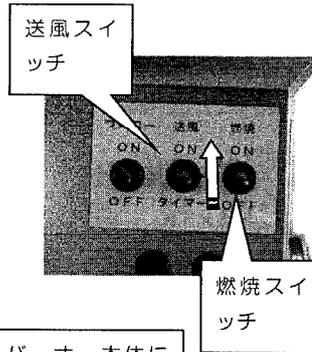
- (b) 燃料タンク内の水分を排出する。
 タンク下部にあるドレンコックを開き、
 タンク内の水分を排出してください。



⚠ 注 意

燃料タンクに水分が混入すると燃料ポンプの性能低下や、バーナーの燃焼不良原因となります。又、燃料タンク内は、空にならないよう注意願います。

- ③ バーナーの送風スイッチを『ON』にして、次に燃焼スイッチを『ON』にします。約15秒後に自動的に着火します。この時、バーナーが着火した事を青い監視窓より、確認してください。この状態で5～6分間運転します。



⚠ 注 意

初回、燃焼スイッチを操作しても電磁ポンプからバーナーまで燃料が届く約2～3分間は炎が出ない場合がありますのでご注意ください。また、バーナーの着火確認窓より着火されている事を必ず確認してください。

バーナー本体にある青い監視窓より着火確認する。



⚠ 警 告

バーナーの送風スイッチがOFFの状態での焼却運転は、絶対に行わないでください。
 バーナー破損の原因となります。

(3) 投入口を開き、炉内に焼却物を入れ着火する。

① 投入機の本体の開閉

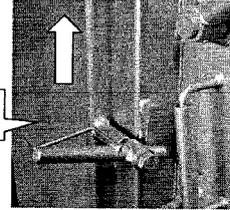
初回投入時、焼却炉本体より焼却物（大型の焼却物）を投入する場合は、ロックレバーを上げて解除し、本体を開き投入し作業が完了したら投入機本体を閉めてください。

プラスチック類は、木材等を燃焼させ炉内を加熱してから投入してください。

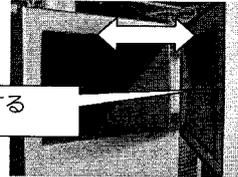
プラスチック類の一回の投入量は焼却能力の5%が限度です。それ以上投入すると、黒煙が発生します。プラスチック類投入直後は空気口を絞ってください。その後は、黒煙が発生しないように空気口を調整してください。

合板等は、発熱量が大きく炉内に投入する時は焼却能力の5%が限度です。それ以上焼却すると、バーナーや温度センサー等の破損原因となります。

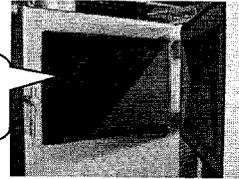
ロックレバー解除



本体を開閉する



初回焼却物を投入する。

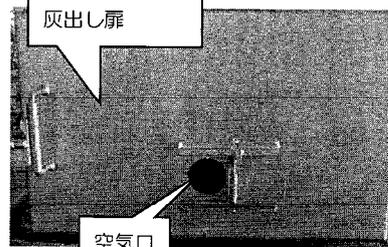


危険

- ◎ 危険物の焼却炉へ投入禁止
 - 引火性の高い物…ガソリン・シンナー
・ベンゼン・エチルアルコールなど
 - 爆発が起こりえる物…スプレー缶・火薬
・密閉された缶など
 - 毒物…水銀・ヒ素・黄リン
 - 劇物…クレゾール・トルエン・硝酸
 - その他、上記以外にも危険性のある物

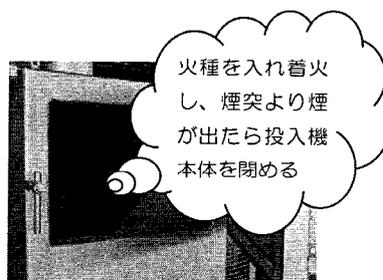
灰出し扉

空気口

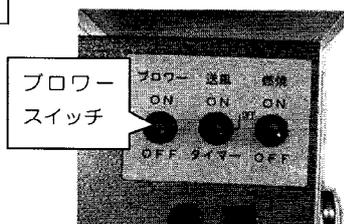


- ② 投入口より火種を入れ、着火します。
 焼却物が完全に燃焼し始めたことを確認してください。

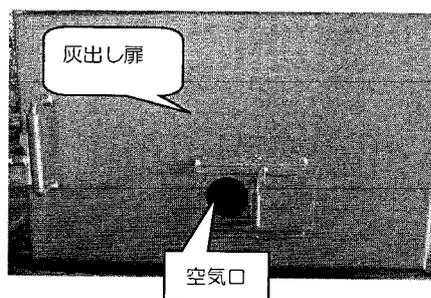
 警 告
<ul style="list-style-type: none"> ・ 塩化ビニール製品は絶対に焼却しないでください。塩化水素の有毒ガスが発生し大変危険です。 ・ スプレー缶等は絶対に焼却炉に入れないでください。爆発／火災の原因となり、大変危険です。 ・ 作業時、扉に指等を挟まないよう注意してください。 ・ 焼却中は投入機本体や灰出し扉を開かないでください。 ・ 各扉を閉じる時は、バッキンに投入物が挟まないようにしてください。



- ③ 煙突より煙が出始めたら投入口を閉め、次にブロワースイッチを『ON』にします。
 (ブロワーのバルブの開き方は出荷状態では全開になっています。通常は全開のままで使用します。)

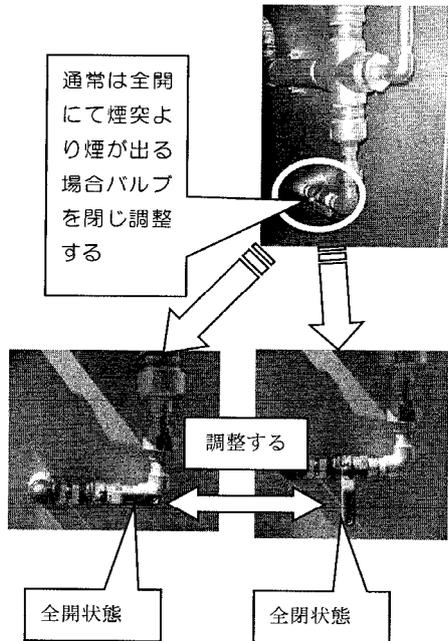


- ④ 煙突から煙が出る場合は、煙が見えない程度に、空気口の開き具合を調整してください。空気口は開けば開く程、燃焼は早くなりますが煙突からの煙量が増えます。煙の出具合によりバランスを取りながら調整してください。紙・木材・ダンボール等は、空気口の開きを大きく、油布ゴム・プラスチック・合板等は、小さくします。



⚠ 警 告

- ・ 焼却中は、炉本体の投入口は開けないでください。
急激に炉内に酸素が送り込まれると、炎が吹き出し、火傷をする危険があります。
- ・ 炉本体、煙突に手を触れないでください。
高温のため、火傷をする危険があります。
- ・ 空気口を、必要以上に開けないでください。
不完全燃焼の有毒ガスがバックファイヤーを起こし、火傷をする危険があります。

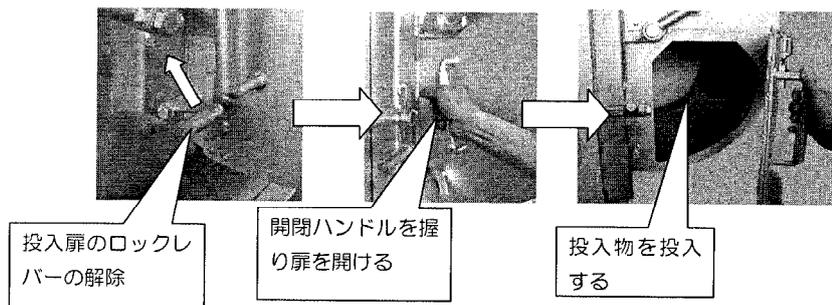


⚠ 注 意

- ・ 使い始め3日間位は1時間の焼却物投入量を木材約5kgにて慣らし運転を行ってください。
使い始めより、急激に炉内温度を上昇させると断熱材（キャスト）の脱水時の蒸気化が急激に起こり炉壁内に大きな蒸気圧が発生しそのエネルギーによって爆裂のような現象が起こり、炉壁を破損することがあります。

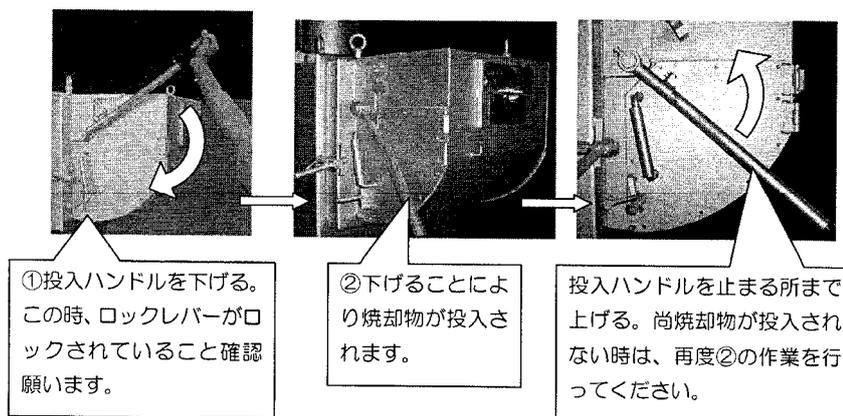
(4) 投入機より、焼却物の投入。

投入機投入扉のロックレバーを上げて扉のロックを解除し、扉を開け投入し
投入後は扉を閉めロックレバーを下げて扉をロックします。



(5) 投入ハンドルを操作し焼却物を投入する。

投入ハンドルを下げることにより焼却物が焼却炉内に投入されます。
投入後、投入ハンドルを上げます。

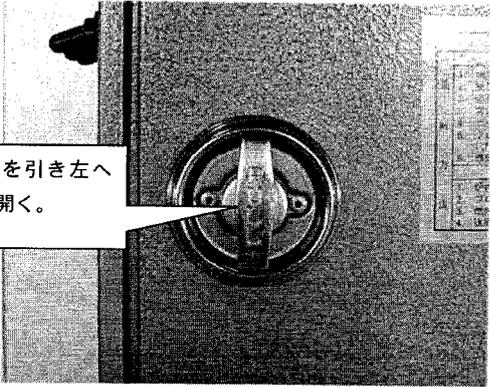


⚠ 注 意

- ・事故防止のため、投入機投入扉を開けた状態で、投入ハンドルは扉に当たりハンドルが下がらないように設計されています。無理に扉を固定位置以上に開けないでください、扉を閉じた時に隙間が出来シール不良の原因となります。
- ・投入ハンドルを押し込んだ状態で投入機本体を開閉しないでください。

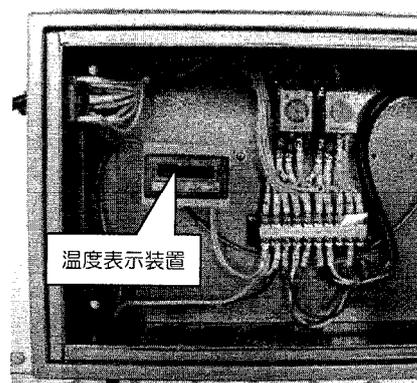
3) 燃焼温度の確認

(1) スイッチボックスの扉を開ける。



ハンドルを引き左へ
回し扉を開く。

(2) スイッチボックス内にある温度計の
温度を確認する。

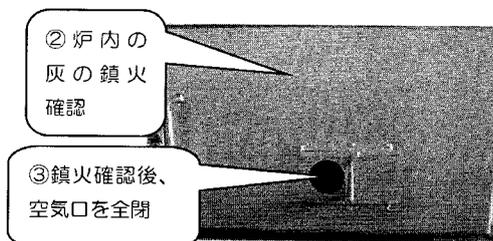


⚠ 警 告

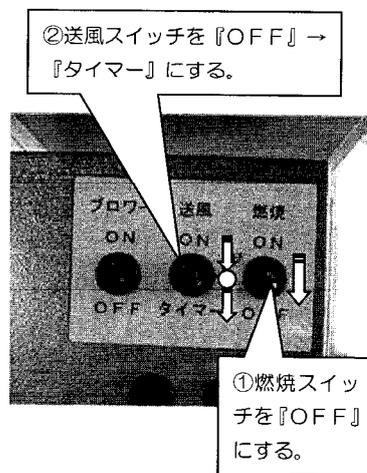
- ・ 雨天や積雪等天候の時は扉を開けないでください。感電や停電の危険性があります。
- ・ ボックス内は交流100Vの電気が流れていますのでボックス内は手を入れないよう注意してください。感電の危険性があります。
- ・ 温度表示装置のボタン操作は行わないでください、正常に温度を表示しなくなります。

4) 消火手順

(1) 炉内鎮火を確認してから、灰出し口内部の灰も付属の灰掻き出し・ロストル取り出し棒を使って、鎮火していることを確認してください。その後、空気口を全閉にします。



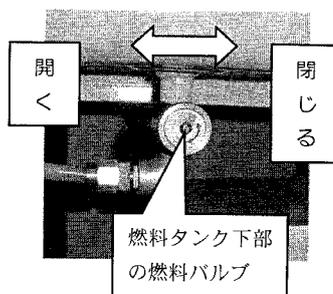
(2) バーナーの燃焼スイッチを『OFF』にします。このとき念のため煙突から煙の出ていることを確認してください。続いて送風スイッチを『タイマー』にセットします。自動的に60分間送風運転が行われ、その後停止します。(煙が出ている場合は再度送風スイッチを『ON』にし、続いて燃焼スイッチをONにし、煙が出なくなるまで2次燃焼を行います。)



⚠ 警告

バーナーの送風スイッチが『OFF』又は『タイマー』の位置で焼却運転は、絶対に行わないでください。バーナー破損原因となります。

- (3) 燃料バルブを全閉後、電源プラグを電源から抜く。



6. 保守・点検

⚠ 警告

炉内及びスパークバー・バーナーノズル等の点検・清掃・調整する時は、必ず電源を切ってから行ってください。感電する恐れがあります。
安全靴・保護メガネ・手袋・マスクを使用してください。

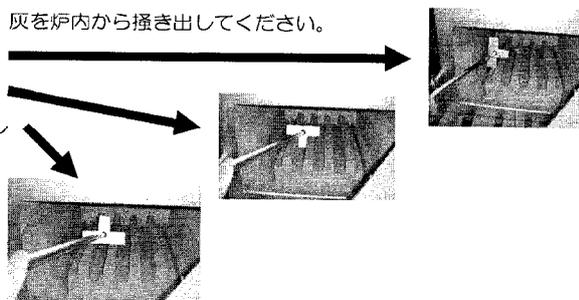
灰が溜まらないよう常に炉内を掃除してください。灰は、燃焼用空気通過の妨げとなり、焼却状態に悪影響を及ぼします。

1. 灰掻き出し棒を使い、灰を炉内から掻き出してください。

1) 側面溝の掻き出し

2) 中央溝の掻き出し

3) 中央上部の掻き出し



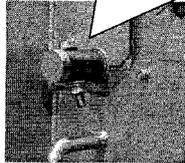
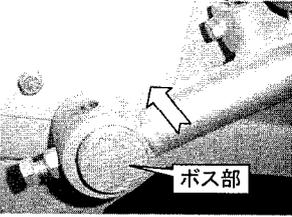
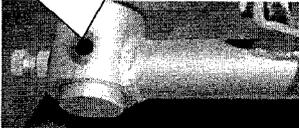
⚠ 注意

取り出した灰は産業廃棄物として処理してください。

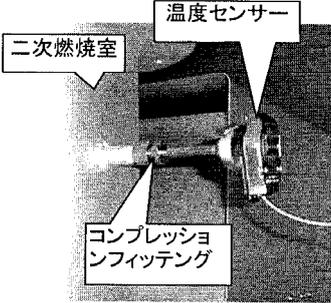
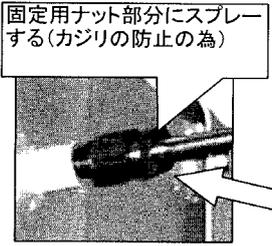
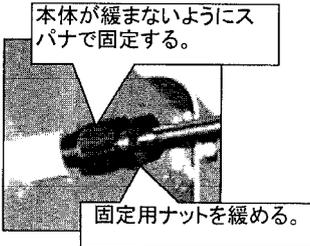
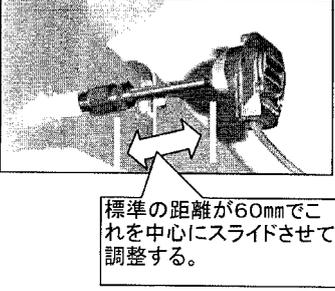
7.故障かな?と思ったら 現象とその対応

現象	原因	対応
1 煙突から黒煙が出る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) バーナーが消火している。 イ) 送風、燃焼スイッチが入っていない。 ロ) 燃料コックがしまっている。 ハ) 燃料が入っていない。 ニ) 停電等により一時的に通電が停止した。 <ol style="list-style-type: none"> 2) 投入扉が開いている。 3) 灰出し扉が開いている。 4) 発砲スチロール、プラスチック等を大量に燃やしている。 5) 一次燃焼室通気バルブが全開になっている。 6) 灰出し口の空気が全開になっている。 	<p>スイッチを『ON』にする。</p> <p>燃料コックを開ける。</p> <p>燃料(灯油)を補給する。</p> <p>燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。</p> <p>投入扉を閉める。</p> <p>灰出し扉を開める。</p> <p>空気が、一次通気バルブを閉め調整を行う。</p> <p>一次通気バルブの調整を行う。(閉める方向に回す。)</p> <p>空気口の調整を行う。(閉める方向に調整する。)</p>
2 煙突から炎が出る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 投入扉が開いている。 2) 灰出し扉が開いている。 3) 一次燃焼室通気バルブが全開になっている。 4) 灰出し口の空気が全開になっている。 5) プラスチック等を多量に投入した。 	<p>投入扉を閉める。</p> <p>灰出し扉を閉める。</p> <p>一次通気バルブの調整を行う。(閉める方向に回す。)</p> <p>空気口の調整を行う。(閉める方向に調整する。)</p> <p>プラスチック等を追加投入しない。</p>
3 一次燃焼室の燃焼物が立ち消えている。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 一次通気バルブ、空気が全開になっている。 	<p>バルブ、通気口を開け、再着火を行う。(着火時バックファイヤーに注意のこと。)</p>
4 バーナーのファンが回らない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 電源が入っていない。 2) コンデンサーが破損している。 3) モーターが破損している。 	<p>電源をつなぐ。</p> <p>コンデンサーを交換する。</p> <p>モーターを交換する。</p>
5 バーナーが点火しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 電源が入っていない。 2) 送風スイッチが入っていない。 3) 燃料コックがしまっている。 4) 燃料が入っていない。 5) イグナイターが破損している。 	<p>電源をつなぐ。</p> <p>送風スイッチを『ON』にする。</p> <p>燃料コックを開ける。</p> <p>燃料(灯油)を補給する。</p> <p>イグナイターを交換する。</p>
6 バーナーの炎が消えた。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料がない。 2) 停電等により一時的に通電が停止した。 	<p>燃料(灯油)を補給する。</p> <p>燃焼スイッチを一度『OFF』にし、再度『ON』にする。</p>
7 投入ハンドルが操作出来ない。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 扉を開めたとき投入物が残っている。 2) ハンドルが完全に引き戻されない。 	<p>投入物の一回の量を減らす。</p> <p>スライド部分に投入物が、かみ込んでいたら投入物を取り除く。(付属の煙さし棒をご使用ください。6頁の写真参照します。)</p>

8. 投入機 投入ハンドル組み付け要領

No	作業内容	参 考	備 考
1	投入ハンドルを梱包から外す。	<p>投入ハンドルの梱包を外す。</p> 	はさみ又はカッターを使用、けがに、ご注意ください。
2	本体ボス部に取り付けられた六角ボルト及びプレートワッシャー・スプリングワッシャーを、スパナ又はメガネレンチ等工具を使用し外す。	<p>ボス部に付けられたボルトを外す。</p> 	<p>使用工具</p>  <p>13mmメガネレンチ 2ヶ</p>
3	投入ハンドルの中央付近に取り付けられているベアリングを投入機本体側面に合わせ、投入ハンドルを本体ボス部に挿入する。	<p>ベアリングを投入機の側面側の状態でボス部に挿入する。</p>  <p>ボス部</p>	
4	本体ボス部と投入ハンドルの穴を合わせる。	<p>投入ハンドル固定ボルト取り付け穴</p> 	
5	合わせた穴に、六角ボルトを挿入しその後、プレートワッシャー・スプリングワッシャー・ナットを組み付ける。 ボルトを締め付け後、ナットを締め付ける。	<p>ボルトを挿入する。</p>  <p>ナット等を取り付け固定する。</p> 	<p>使用工具</p>  <p>13mmスパナ</p>  <p>13mmメガネレンチ</p>

9. 温度計センサー取付・調整 要領書

No.	作業内容	参 考	備 考
1	温度センサーをコンプレッションフィッティング（以後：フィッティング）に挿入する。		
2	フィッティングのセンサー固定用ナット部分に浸透性潤滑剤をスプレーする。		焼却炉が熱いときは、火傷や火災等の危険がある為、中止してください。 
3	フィッティングの固定用ナットをスパナ（サイズ：17mm）を使用し緩める。		
4	センサーを前後にスライドさせ調整する		調整時燃焼室側に極端に接近しないよう注意してください、センサー破損の原因となります。
5	調整後、2項で緩めたフィッティングの固定用ナットを締め付け固定してください。	2項写真参考	締め付けトルクは、センサーが手で軽く力を加え動かない程度にお願いします。
7	以上で作業終了です。		